

保護司だより

春日部地区保護司会(春日部市・杉戸町・宮代町)

第4号

平成27年
2月発行



『東武動物公園』のカバの親子。穏和なイメージのカバですが、出産前や子を守ろうとする母親は、気性が荒くなるそうです。暑い日中は水の中にいて、夜になると陸上で草を食べる夜行性の生活をしています。

少年の「保護観察」



春日部地区保護司会

会長 水口 賢一

永い保護司生活の中でいちばん最近のS少年の事例を紹介します。

引受人は、さいたま市の義父(自身も少年院の経験)で、S少年が春日部市の会社に就職し、寮生活をする事になったので私が担当する事となり、保護観察が始まりました。約一カ月の間、二度の面接もきちんと言葉遣いもそれなりに出来ていましたが、会社での態度も私の前でも随分気を遣っている感じが感じられました。面接の回を重ねる毎に普通になるものと思っていた矢先に会社に戻らなくなっていました。すでに一カ月になりましたが、全く連絡も無いという事態になりました。当然の事ながら、義父や会社にも音沙汰がありません。会社での仕事ぶりは非常に良く、社長さんも期待をしていましたが、休日に義父の元へ帰った際、お小遣いを

少々もらったまま姿を消してしまいました。

私は、多くの少年と関わって来ましたが、このS少年もまた、体の変化と心の揺らぎがあったものと思いますし、大人社会への反抗も私達の前では必死に抑えていたのでしょうか。義父の庇護も彼にとってみれば干渉と感じていたのかも知れません。保護観察期間中の少年の心は変わりやすく、いろいろと問題を起す少年は今迄もありました。S少年も早く目を覚ましてくれることを切に願っています。

私達も多感な時期を過ごしたこともあり、思春期の子供を育てたという当時は思い出し、少年の目線に立って理解し対応しなければと思います。様々な少年との関わりに、より難しさを感じながら、新しい対象者と共に自分自身も成長している事を感じています。





保護司について

さいたま保護観察所

所長 笹井啓二

「保護司とは何をする人」と聞かれて、即答できる人は少ないのではないだろうか。

保護司制度を含む、非行・犯罪を犯した人の立ち直りを地域で支援する更生保護の仕組みができて、今年で六十五年となりますが、一般の方々はまだ十分浸透しているとは言えません。

保護司の使命や職務は幅広く奥深いものであるため、限られた紙面では限界がありますが、その一端をできるだけ分かりやすく説明したいと思います。

非行・犯罪を犯した人はいずれ地域社会に戻ってきます。彼らを疎んじて遠ざければ、結局地域で安定した生活ができずに、再犯・再非行に至る懸念が高まります。そんな彼らに優しく「おかえり」と声を掛け、地域社会に早く溶け込めるよう本人と地域社会と

の橋渡し役を担っているのが、保護司であると言えます。保護司は非常勤の国家公務員ですが、無給であり、いわばボランティアで職務に当たっています。

保護司は、保護観察となつた人を定期的に保護司宅などで面接し、更生に向けた相談や指導を行っています。自分を気にかけてくれる人が身近にいることで、彼らも勇気づけられていることと思います。また、その他にも犯罪予防の啓発活動といった職務を担い、保護司を務めることは、たやすくありませんが、一方、自らの支援が実を結ぶ手応えや活動を通じての自身の成長を実感でき、やりがいを感じるといった声を多くの保護司の方からお聞きしています。住民の皆様には、是非春日部地区の保護司のサポーターになつていただけると幸いです。

保護司と保護観察

ある保護司の声から

さいたま保護観察所

ある日、保護観察官から電話があり、「傷害事件で保護観察になった十六歳の少年の担当をお願いします」と依頼されました。初めの面接で少年の反抗的な目つきを見たとき、本心に立ち直ってくれるのかと、不安に感じたのを覚えています。当初、

その子となかなか連絡が取れず、母親と連絡を取りあつた時、「保護観察を受けるのは俺でしょ？何で俺の事情を聞いてくれないの？」と言われ、ハツとしました。どんな事情があれ、この子を第一に考えないといけないと学びました。

その後も、学校を退学することになるなど、先が見えない日々が続く、私に何ができるのか悩む毎日でしたが、保護観察官のアドバイスを受け、家庭訪問をしたり、就職先と一緒に探し歩いたりして、粘り強く対話を続けました。

少年は何度かの転職の後、料理店で働き始め、やがて店長の信頼を得るまでに成長しまし

た。保護観察も無事に解除(期間途中での終了)となり、少年から「先生、僕の作った料理を食べに来てよ」という言葉をかけられたときは、少年の成長を目のあたりにして、保護司になつて本当に良かったと思ひました。

このように、保護司の仕事は対象者の悩みや葛藤を共有しながら、彼らが地域の中で更生する手助けをする仕事です。過去に非行・犯罪を犯しても、本心は「何とか更生したい」と願っている人々が大半です。保護司の関わりは、そんな人々の支えになつています。ある保護司は「保護観察が無事終了して、少年と握手したときの感動は言葉では言い表せない。一人でも多くの人にこの感動を味わってもらうため、保護司になつてもらいたい」とも述べています。



第64回 社会を明るくする運動

作文コンテストの入賞者紹介

さいたま保護観察所長賞

〔みんな歪みを抱えている〕

春日部市立武里中学校三年



平野 茉莉愛さん

私はこのような賞を頂けるとをとてもうれしく思います。私は祖父から教わった大切なことを自分の言葉で表すことで、今まで気づけなかったことにも目を向けることができました。一度道を踏みはずしてしまった人も、誰かの幸せに心を震わせ、尽きることはない悩みや、ふとした瞬間に押し寄せる孤独との戦いに日々心を痛めている。その事実が、私達の知識のなさから生まれる誤解や偏見の壁によって、明るい社会に届いていないのだと思います。本当に明るい社会をつくるには、犯罪を減らすだけではなく、「愛なく生きている人」をつくらないことが大切だと思えます。私達はみんな歪みを抱えている、ということをお忘れずに。

さいたま保護観察所長賞

〔二人じゃない〕

春日部市立宮川小学校六年



山崎 友梨香さん

私は、この賞に選ばれとてもうれしいです。この作文にこめた思いは、私たちは一人ではない。少なくとも友達、家族など自分が一番信じられる人がいるはずで、私には、友達がたくさんいて、女の子にかぎらず男の子の友達もたくさんいます。時には、からかわれて怒ってしまふ事がありますが、他の友達がやさしく声をかけてくれるので心がおだやかに、けんかなどしないで楽しく学校生活がおくれるんだと思います。このようにだれかがこまっている時助けてくれる関係は、学校だけでなく、社会人になっても言えると思います。だれとも仲よく助けあえば、いじめも差別もなくなっていくと思います。

保護司会の活動状況

〔研修〕

保護司は、犯罪を犯した人や非行のある少年の改善更生を助けたり、犯罪を予防したりする活動を行うことなどを使命としています。この使命を遂行するため、最初に「新任保護司研修」を受け、その後も保護司の経験年数に応じた各種の研修を受けます。

年四回行っている定例研修では、保護司が職務を遂行するために必要な、関係法令や保護観察対象者に対する面接の方法、報告書の作成方法、事例研究などで、講師は主にさいたま保護観察所の方が務めています。

このほか、一泊研修と日帰り研修では、刑務所や少年院等の矯正施設などで、施設の視察や入所者の矯正指導などについて学びます。保護司は、こうした研修で得たことや独自に学んだことを活かしながら、更生に努力する人たちへの指導や犯罪予防の活動等に当たっています。

〔活動〕

▽「社会を明るくする運動」の一環として、春日部・杉戸・宮代の各支部で、それぞれ啓発活動(駅頭・中学校)を行っています。

小学校・中学校では作文コンテストに参加しています。

▽春日部支部では平成二六年十一月一日に行われた「ふれあい広場」に参加し、「保護司クイズ」などを行い、市民と楽しくふれあいました。



今年度の一泊研修は長野刑務所を視察しました

自立に向けた第一歩をサポート

NPO法人 埼玉県就労支援事業者機構事務局長 後藤宏道

埼玉県就労支援事業者機構では、昨年度一一七名の対象者を就労・定住に結び付けました。更生保護は地域において非行・犯罪を犯した人たちの立ち直りを援助するものですので、地域の皆さまのご理解・ご支援がなければ成り立ちません。この就労支援も皆様方のご協力が必要ですので、積極的な参画をよろしくお願い致します。

協力雇用主さんの声

私が父の経営する鳶・土木事業の会社に入ったのは三十三年ほど前になります。入社した時には刑務所から出所してきた人達が数人程いましたが、最初は何も知らないまま一緒に現場で働いていました。あとから前科があることを知りましたが、全く普通の人達で驚きました。

私が社長になって平成十七年の夏、清心寮から、面接してほしい人がいるとの電話があり、面接をして採用することを決定し、伝えました。清心寮から、現場には自転車を通い一生懸命働いてくれました。しばらくして、会社の寮に入りたいと申し出て本人の希望通り入室しました。当時は五十八歳でしたが、

六十七歳になった今でも頑張っています。私が社長になって初めて清心寮から採用した人です。

その後、少年院からの問合せや就労支援機構からの依頼で多くの人達を採用しました。出所した人達、退院した少年達は、その日から住む場所を確保する必要がありますがあるので、職業を選んでいる状況ではなく、経験のない仕事でもやらなければならぬのは、とても辛く大変なことです。私は、出所してきた人達、退院してきた少年達にとって、働きやすく、生活しやすい環境を提供することで、彼らが、この仕事を好きになりこの会社で長く働きたいと思ってくれたいことを願っています。

春日部地区の保護観察対象者と犯罪内容

春日部地区保護司70名は、対象者と面接を通じて信頼関係を構築し自発的な更生、社会復帰を促します。また、仮釈放後の住居、就労その他社会生活を円滑に行うための環境の調整(平成26年12月末日現在では少年院3件、刑務所67件)を行っています。

春日部地区の保護観察対象者と犯罪内容 (平成26年12月末日現在)

種別	件数	主な犯罪内容	対象者
1号観察	31件	窃盗、傷害・暴行 交通関係	保護観察 処分少年
2号観察	18件	窃盗、傷害・ 恐喝、交通関係	少年院仮 退院者
3号観察	7件	窃盗、 薬物関係	仮釈放者
4号観察	26件	薬物関係、 窃盗、交通 関係	保護観察 付執行猶 予者

編集後記

更生保護シンボルマーク



人はみな、
生かされて
生きてゆく。
更生保護ネットワーク

表紙の写真は動物の親子を取り上げました。それは人と人の関わりの原点もこの親子の構図ではないかと考えているからです。

今回の保護司だよりのテーマは「保護司を知ってもらおう」でした。しかし、保護司が必要のない世の中も良いなあとも思っています。写真の親子のように、暖かい気持ちや愛で満たされる世の中になれば必要なくなるのではと、ふと考えてしまいます。

発行・編集

春日部地区保護司会 広報部会

事務局

春日部市中央六丁目二番地
春日部市役所生活支援課内